★離床センサーのパイオニア・テクノスジャパンがお届けします★

テクノス通信 VOL. 1 Dec.2009

「床敷きセンサーを避けてしまう方への対策！」（現場の工夫）

床敷きセンサーの課題とその対応策

床敷きセンサーの課題

「センサーは報知していないのに、患者さんが病室の外へ出ていた！」このような経験はないですか？
床敷きタイプのセンサーは、対象者がベッドから降りようとして足を床に下ろしたり、居室から出ようとしたりすることを知らせますが、「センサーを踏む」という行為をしなければ報知しません。
対象者がセンサーをまたいだり避けてしまう場合は、対象者をセンサーに誘導するような工夫が必要です。

床敷きセンサーへの誘導方法

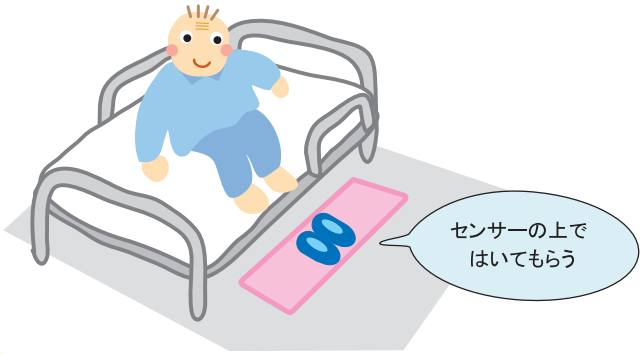
センサーを踏んだことによるコールに対し、通常のコールと同じような対応をしてしまうと、対象者がセンサーの存在に気づき、意識的にセンサーを避ける原因になってしまいます。センサー報知のコールでは、それと気付かれない対応をしてみてください。
その他に、病院・施設様で実際に行われている「患者様を床敷きセンサーに誘導する工夫」を紹介いたしますので、是非参考にしてみてください。

1. 決まった昇降口への誘導

センサーを設置していないベッドの側面を壁際に付けたり、柵の設置を工夫したりすることにより、センサーを設置していない場所からベッドを降りてしまうということを防ぎます。

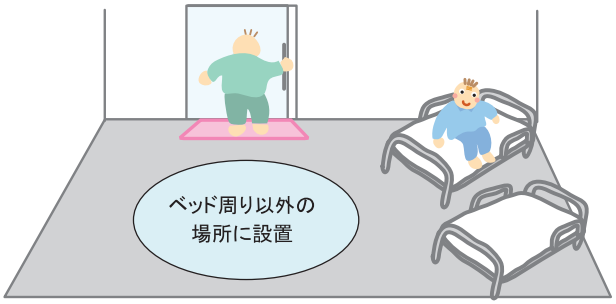
2. センサーの上に履物を揃えて置く

巡回の際には、センサーの上に履物を揃えておくようにします。履物がセンサーの上にあることにより、自然にセンサーへ誘導することができます。また、履物が揃えられていることにより、対象者が無理な体勢で履物を探して転倒ということを防げます。



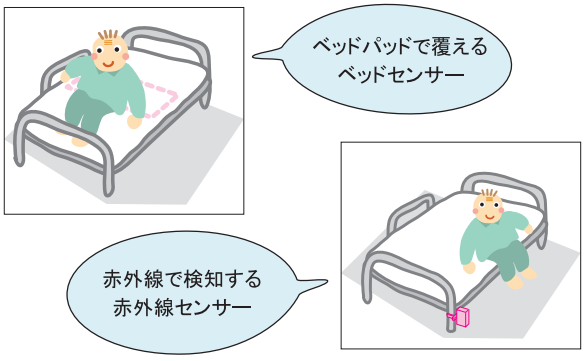
3. センサーを居室の出入り口に設置

ベッドから立ち上がるまでは心配ないけれど居室の外での単独行動に見守りが必要な場合や、夜間帯のみセンサーの設置が必要な場合は、ベッド脇ではなく居室の出入り口に、床敷きセンサーを設置することも有効です。（コードレスタイプなら設置が容易、運用がより安全です）



4. 床敷き以外のセンサーを利用する

工夫だけでは対応できない場合は、ベッド上のセンサー（ベッドパッド等で覆うことにより対象者には見えない）や、赤外線センサーなど、床敷き以外のセンサーを利用することも有効です。



次回は、『センサーのコードレス化が望まれるワケ！ －より安全な看護環境づくりに－』です。お楽しみに！

無断の複製、転載は固くお断りいたします。 Copyright(C)2009 Technos Japan Co.,Ltd. All Rights Reserved.